

岩手



歲月不待(さいげつふたい)

岩手県屋外広告美術業協同組合 理事・広告景観委員長 倉本 武樹

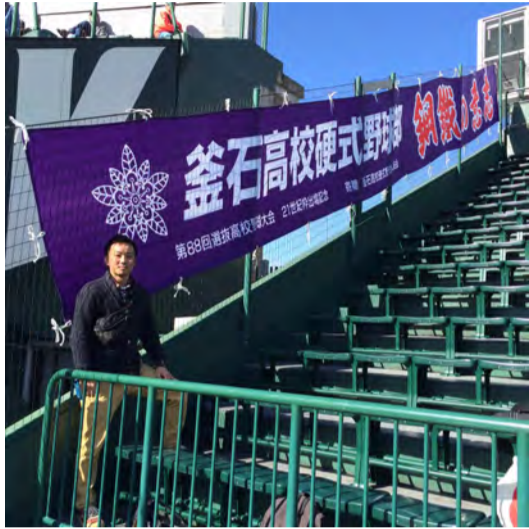
(有限会社クラフト塗装工業)

昨年末、本誌への寄稿をお声がけ頂き引き受けたものの、何を書けばよいか・・・と考えて、はや二〇二三年も二月末。今年に入り、一ヶ月が経とうとしている。

大学の恩師に「三十過ぎると時間が経つのが早い」と、腹が出てくるよ。徐々にね・・・」なんて言われ「本当に早いですか？腹だつて野球やって鍛えてたから出るわけがないですって」と笑いなから言っていた頃から、もう二十年。

ここ最近もコロナ関連の報道が大半のように感じ、ただでさえ社会生活に影響があるのに、何とも言えない気持ちになつてくる。そんな中、時というのは面白く、なんとというタイミンゲ！と思ったことがあった。

東日本大震災から節目の十年になる昨年、彼ならこの年を狙い喜ばせるために選んだのではとさえ感じてしまうが、MLBで大谷翔平選手が日本人ではイチローさん以来の年間MVPを獲得した。何



よりも一年間二刀流で活躍し成績を残す偉業を成し遂げたことが、素晴らしいと思った。大谷選手の活躍は、同郷であると同時に岩手県で高校時代野球に明け暮れた人間として嬉しく、才能を羨ましく思った。非常識を常識に変えた大谷選手。チャレンジすることの

大切さ、継続することの重要さ、高校野球の時に教わったことを思い出させてくれる出来事だった。大学卒業後は県外で働いていたが、父が手術をしなければならなかったり、母親が介護で大変だということでも二十八歳の時実家に戻ってきた。それから数年が経った二〇二一年の大震災。あの日からは怒涛の日々で、あつという間に十二年が経過した。自分には何が出来るようになるか・・・自問自答することもあったが、母校である釜石高校が甲子園に出場した際、横断幕の制作を手掛け一勝をしたことはこの上ない喜びだった。

未知のウイルスだけではなく、最近では火山噴火のような自然災害や豪雨災害・・・幼い頃はこのようなことがあつただろうかと振り返る事が多くなつたような気がする。時代の流れは早く、様々なことが起き、早

過ぎて取り残されるのではないかと感じる自分がある。世の先輩方はどうだったのだろうか。時代の流れが早いと感じることがあつたのだろうか。とても気になるところだ。大谷選手ではないが、今私は三代目として看板業・塗装業の二刀流で経営

させて頂いています。毎日が勉強の日々です。二刀流は甘いものではないと思っていますが、デジタル化が進んでいる中、時代の流れに沿うことも大切に、そして昔ながらの技法も大切にしながら町の復興に貢献できる企業にしたい。チャレンジ精神、継続は力なりを大切に日々勉強。今まで出会った恩師となる方々、そしていつも支えてくれている周りの方々に感謝です。ありがとうございます。私自身四十代に突入し、お陰様で腰袋をして屈んだ時、息をするのが辛くなつてきております。大学恩師の言っていたことは現実となつております。びつくりです(笑)

事務局便り

カレンダー令和四年に昭和九十七年と書かれているのに気づきハッとする自分、昭和は少し前のよつに思うのにその間平成の三十年があり、昭和生まれの自分、平成令和と何をやってきたのかと思ひ返してみると、この業界でお世話になつて早くも二十八年になる事に改めて驚いています。当時二歳になつたばかりの息子が二十九歳、子どもいるパパになつていますから確実に時を過ごしてきたのは間違いありません(笑)

看板屋の仕事を知らずに入り、後に白澤前理事長就任に伴い事務局を仰せつかり、何もわからないまま、前任

者との引継なくスタートした事務局、緊張して参加した初めての理事会で大同工芸社の故岩持理事がお声がけしてくれ指導して下さいましたのを思い出します。急逝された青年部長平山理事は初めてのパンフレット作りや電気用品安全法講習会開催など随分と力になつて下さいました。ナイガイの故佐藤幸雄副理事長はいつも冗談まじりにお声かけて下さり場を和ませてくれる優しい方でした。亡くなる少し前に弱々しい声でお電話いただき話したのが最後になつてしまい心残りです。私が栄建に入社した当時の岩広美理事長だった日交の高橋会長は仕事を通してまた看板組合についても事務所に来ては色々話してくれました。そうして皆さまのお心遣いにご教示に恵まれ二十八年続けられた事に心より感謝し、在りし日のお姿を偲びご冥福をお祈りいたします。

多く同業がいる中で看板組合に入る意味は何？入つても会費ばかりで恩恵がないと思われているかもしれません、岩広美は会員数が減る一方で運営は厳しいところもありつつ、行政との連携したつながりが円滑に出来ているのは理事の人柄と信頼関係にあると思つています。白澤前理事長が掲げた後継者育成の流れもあり現在の岩広美理事は二代目社長にバトンをタッチされ、若い人たちの感性と感覚、向上心で業界を走っているように感じています。看板組合に入会する事で同世代、業界の先輩方との交流により学びものは何よりの財産ではないでしょうか。

私も看板屋の事務員と看板屋の事務局を兼務して多くの学びがあり、多方面に目を向けられた強みは自負するところです。目に見える徳や活動ばかりでなく、目に見えないものに目を向け、二〇二二年風の時代を走りましょう。

たくさんの方に支えられ、ご教示いただき、岩広美事務局を通して皆さまに暖かく見守つて頂けてる事に感謝申し上げます。製作や現場と違い事務業務は成果品としてお見せできませんが、何処かで誰かが見ていてくれると思ひ励みとして今後いっそう精進致します。

事務局員 小野寺 美智代